

第5回里山フェスティバル「里山シンポジウム」

開会挨拶

新沼勝利（東京情報大学学長）



本日は、里山シンポジウムということで、東京情報大学にお出でいただきましてありがとうございます。

東京情報大学がなぜ里山シンポジウムなのか、とお考えの方もいらっしゃるかもしれませんが。東京情報大学は今年で創立から21年目になりますが、学校法人東京農業大学が、21世紀の新しい時代に向かって、新しい研究教育をしようということで千葉市に開学した大学です。

そのような経緯もありますが、里山シンポジウムをここで開かせていただいたのは、本学の原学部長が、シンポジウムの委員等をさせていただいているということもありますが、情報というのは、IT、すなわちインフォメーション・テクノロジーだけではなくて、やはり経済とか社会とか、あるいは文化にも関連のある学問分野です。東京情報大学にもそのような学科もございます。本学には、情報システム学科、環境情報学科、情報ビジネス学科、情報文化学科があり、その学問分野の一つに地球環境、地域環境、あるいは身近な環境についても研究をしており、環境と情報というのは切っても切れないものです。そういう意味で、情報大も今回の里山シンポジウムに大いに協力していきたいということでございます。

皆さんも既にご存じのように、本学のケビン・ショート教授は、里山の世界的研究者であり学者であります。本日も参加されますが、そういった先生、あるいは原学部長も、イギリスにおいてカントリーサイドの研究をしていますし、第2回の里山シンポジウムでは基調講演をされています。また、本学のその他の若い先生方の中にも、里山の研究をしている教員もおります。情報大で技術的な観点からは、リモートセンシングであるとかあるいはGIS（地理情報システム）であるとか、そのような技術を使って環境を観測し、また、環境保全をどのようにサポートしていくかということも、ひとつの大きなテクノロジーだと思っております。

少し話が長くなってしまいましたが、その他に今、千葉県が生物多様性の県戦略を全国に先駆けて作られております。里山と生物多様性というのは、里山には多様な生物が棲んでいるわけでありまして、水辺に様々な動物、あるいは微生物などたくさんの生物がおりますので、その身近な環境を守っていくとなると、それらの生物がきちんと生きられる環境を作ることが、人間にとっては大事なことだと思います。そういう環境を、千葉県がいち早く保全し、なおかつ、よい環境をつくっていくということは、私は大変重要なことであると感じております。

また、今、地球温暖化の問題が大変重要な課題として出ておりますが、その温暖化は生物の多様性に極めて大きな意味を持っております。そういう意味では、里山を保全してそれを地域社会に定着させていくということは、地球環境を守ることと軸は同じだと私は思います。是非このシンポジウムが、これから世界のカントリーサイドにまで繋がっていくことと、地球環境の温暖化が解決されるような方向に繋がれば大変ありがたいと思います。

このシンポジウムが、意義あるものになることを祈念いたしまして、簡単ではありますがご挨拶にかえさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。